

柵設置

策を発表



原因と再発防止策につ
 最終報告をするしな
 の藤井社長(中央)ら

を本線近くまで動かし、その
 ライトで照らした。

氷熊武文・取締役運輸部長
 は、監督者が最終列車の通過
 を確認しなかっただけでな
 く、指令室に作業の開始を連
 絡しなかったことが事故の直
 接的な原因だと説明した。

進出防止柵は、引き込み線
 上で列車との接触を避けるた
 めの「車両接触限界標」より
 手前に設け、監督者が鍵を開
 けて倒さないと通れないよう
 にする。坂城駅のほか、横取
 り装置がある信濃追分(北佐
 久郡軽井沢町)、平原(小諸
 市)、田中(東御市)、千曲
 (千曲市)の全4駅にも設置。

また横取り装置向けの照明と
 スイッチが100灯ほど離れ
 ていたことも事故の背景にあ
 るとして、坂城、信濃追分、
 田中の3駅でスイッチを照明
 の近くに移動するとした。

藤井社長は「今回の事故で、
 基本を守ることの重要性をあ
 らためて感じた。今後は基本
 を見直し、安全で安定した輸
 送を続けたい」と述べた。

社長「変更せず」

「本線ぎりぎりまで寄
 っていく。横取り装置の照
 射場を上部から照らす位
 置だが、スイッチはホー
 ンと離れているため、車両

276
 H25.12.26
 休

LPガスの容器で 一部耐圧試験せず

日通商事伊那の検査所
 LPガス販売などの日通商
 事(東京)は25日、伊那市

沢渡にある同社検査所で、フ
 オークリフトの燃料用LPガ
 スの一部容器について、耐圧

試験をせずに出荷していたと
 発表した。いつからどれだけ
 試験をしていなかったか分か
 っていない。同社は、高圧ガ
 ス保安法が5年ごとに試験を
 行うよう定めていることか

ら、過去5年間に5都県内に
 出荷した全4266本の回収
 を進めているが、24日時点で
 32本(長野県内分は1本)が
 未回収という。

田中正憲専務らが25日、県
 庁で記者会見して謝罪した。
 同社は「容器に亀裂が入る危
 険性は極めて低い」としてい
 るが、ガスが満たされたまま
 亀裂が入った場合、近くに火
 の気があると引火する可能性
 がある。容器の耐用年数は20
 年間という。

6月に内部通報があり発
 覚。耐圧試験の件数が集中し
 た際に、納期を間に合わせる
 ために検査担当者の一部で試
 験を行わなかったことが分か
 ったという。ただ、試験結果
 を記録した書類が無く、どれ
 だけ試験をしていなかったか
 分かっていない。

シロカメムシのオアシス



東京・目黒 研究チーム4種発見新種も

東大などの研究チームが25日、東
 大駒場キャンパス(東京都目黒区)
 でカメムシを114種見つけ、うち
 1種を新種と確認したと発表した。

チームによると、国内で知られて
 いるカメムシの種は1400程度。
 新種もたびたび見つかっているが、
 都市部での発見は珍しい。この種が
 属するグループと発見場所を合わ

せ、学名を「セヤマス・コマバヌス」
 と命名した。

石川忠・東大特任研究員は「都会
 は生物の種類が少ないイメージだ
 が、緑が保たれていればカメムシな
 ど多くの昆虫が生活できる。そうい
 う場所を保全しなければいけない」
 と話している。

5月ごろに構内の木にいるのを採
 集した。既に知られている種と形な
 どを比較し、カメムシの中でもカス
 ミカメというグループの新種と判明
 した。大きさは3ミリ程度で、植物の

県内空間放射線量

県環境部は25日、県内7カ
 所で測定した空間放射線量を
 発表した。長野市安茂里
 の県環境保全研究所屋上(地
 上15m)の24日の最大値は毎
 時0.041μSv/hで、前日の
 値(毎時0.042μSv/h)を
 下回った。

北信の栽培キノコ
 セシウム検出せず
 県農政部は25日、県内のそ

最大値は、前日を上回った
 のが3カ所、同じだったの
 が3カ所。同部は「東京電
 力福島第一原発事故前から観
 測している長野市の値は、
 事故前と同じ水準」としてい
 る。

放射線量の最大値の推移 (平日発表)

場所	24日(前日)	25日(本日)
長野 県環境保全研究所	0.041	0.042
飯山 県飯山庁舎	0.054	0.043
軽井沢 町役場	0.039	0.039
大町 県大町合同庁舎	0.074	0.074
松本 県松本合同庁舎	0.067	0.065
諏訪 県諏訪合同庁舎	0.050	0.050
飯田 県飯田合同庁舎	0.060	0.059

(単位:μSv/h) 下の6カ所(地上15m)の
 他(毎時0.042μSv/h)を
 下回った。

